

主体的な学習を促すための課題学習

—— 「足利市を見なおしてみよう」の授業実践 ——

足利市立第二中学校 大竹利夫

1. 研究の意図

「足利市を見なおしてみよう」は、学習指導要領の目標のうち地理的分野の(2)と(5)と関連が深く、内容の(2)「日本とその諸地域」の「身近な地域」を内容しながら、「適切な課題を設けて行なう学習」として設定した単元である。課題学習は、今日的な教育的社会的要請である自己教育力の育成や、生涯学習体系への移行などに対して、社会科指導の観点からの1つの手立てとも考えられる。また身近な地域の重要性については「①実証的な学習態度・能力を育てられる。②問題解決能力を身に付けられる。③社会認識の基礎、基本が習得できる。④自覚的・直接的に市民資質の形成が可能である。⑤人間の生き方を学ぶことができる。」という考え方もある。このように人間形成上重要な意義を持つ身近な地域の学習を、教師自らの地域に対する正しい認識と、地域への愛着と所属感で、効果的な指導ができるようにしていく必要がある。しかしながら、従来行なってきた身近な地域の授業実践では、この授業の重要性について認識しながらも、地形図の読図や作業などが学習の中心であり、授業時数の問題や地域学習の難しさ故観察調査活動という体験的な学習を行なうことを行なってたのが実情であった。こうした現状を改善し生徒主体の学習を成立させていくには、どうしても原点に立ち返り、この学習のねらい（①生徒が生活している地域に対する理解と関心を深めさせ、その発展に努力しようとする態度を育てること。②地理的な見方や考え方の基礎を培うこと）を分析し、更に生徒や地域の実態を考慮し、生徒の主体的な学習が期待できる課題学習の単元を、再構成することが必要であると考えた。

このような基本的な立場に立ち「足利市を見なおしてみよう」の小単元を構成し6クラスで授業実践を行ない、この学習について確認しようと考えた。

2. 「足利市を見なおしてみよう」の授業実践を通しての成果と課題

- (1) 課題設定の趣旨(略)
- (2) 学習指導要領の内容とのかかわり(略)
- (3) 調査対象地域（足利市）及び本校生徒の実態について

① 本校の生徒は足利らしさの象徴である「足利学校」「鏑阿寺」を学区に抱かえ足利市の中心部に居住し、小学校の頃より日常的生活空間の一部として鏑阿寺を見ている。足利学校についても、来足者への案内や特別活動の一環として、見学体験学習をした生徒もいる。小学校の社会科学学習における、学区内の見学調査学習を通して生活空間については、多少は理解できているが、社会的事象の背景、関連、展望についての考察は難しい。史蹟等の見学調査では他学区の生徒に比べれば恵まれた条件にあったが、地域内で進行している事象の変化について調査・観察する学習の機会は、これまであまりなかったといえる。例えば中心商店街の衰退原因はどこにあるのか。人口のドーナツ化現象は、どの位進行しているのか。足利学校などへの観光客は、どこからきているのかというような、日常的に接していくながらもその背景や関係などについては、捉えられていない事象も多い。また本校の生徒は、社会科の学習は知識、理解が中心であり、それらは単なる暗記事項だと捉える生徒が多く、結果的に本校生徒の中にある社会科地理的分野に対する苦手意識の強いことがわかっている。

② 社会科アンケート（平成5年7月実施）より考えられる本校生徒の実態について本アンケートは本校生徒の1年（現在2年）1クラス、2年（現在3年）3クラス、3年（現在高校1年）3クラスの男女合計248名と、本校学区内4小学校の6年（現在本校1年）男女合計216名を対象に実施したものであり、その中から観光項目以外（下記）についてだけ取り上げてみた。

ア. 日常行動圏 イ. 周辺の空間認識 ウ. 将来構想 エ. 帰属意識 オ. イメージ

ア. 日常の行動圏について

日常的な行動圏は小学生、中学生共に市内が中心であることがわかる。

イ. 周辺の空間認識について

周辺地域を両毛と考えてみたが、正答は全体の約16%であり、発達段階の差より男女差が見られ、女子の認識が低いことがわかる。

ウ. 将来構想

自然、歴史観光、教育文化というものが上位である。工業はマイナスイメージが強い。また、小学生に農業という項目が多いことが目立つ。

エ. 帰属意識

観点が不明確であることや他地域との比較がされてないので、中間的な解答が多い。

オ. イメージ

各学年を通して足利学校の評価が高い。また、自然や鎌阿寺などに代表される歴史的建造物や町並みなどに対する評価が中学生になると高くなる。

一方、川の汚れやゴミに対する嫌悪感や、他の地域との比較から施設に対する不満を持っていることがわかる。

社会科調査（アンケート）NO-1

平成5年7月
宇都宮大学社会科教育研究室

この調査は足利市を中心として、周辺の市・町のことについてあなたがどのくらい関心があるかについて聞くものです。テストではないのであります。そのまま書いてください。また、書いたことであなたや友達、家族、先生にめいわくかかることは絶対にありませんのでよろしくお願ひします。

4. 下にあげた市などの位置がわかるように、その名前を開東地方の地図の中にかきいれて下さい。

佐野・桐生・太田・館林・宇都宮・前橋・浦和・東京（アサヒ・ハシタケ）

（小・中）学校 年 男・女

1. あなたが、ふつうの日に友達や家族と買い物などで出かけることが最もおおい所はどこですか。（市や町の名前で答えてください。）また、その時の乗り物は何ですか。

2. あなたが、休みの日などに友人や家族との遊びとして行ったことのある場所はすべて○でかこんでください。（その他は東京であったら書いてください。）

太田のどんりゅうさま	草木ダム	いわじゅくいせき	やぶずかの ヌイケンジヤ
佐野のべんてんさま	から沢山	佐野のやくよけたいし	三日月村
桐生の遊園地（鉄道）	桐生川ダム	館林のつつじヶ岡公園	
東京（東京ドーム・上野動物園・浅草・原宿・国立競技場・サンシャイン）			
など（）			

3. 2の中でも最もよく出かけることが多い所はどこですか。その時の乗り物出かける割合、出かける理由について例を参考にして書いてください。（2の中にはないがよく出かける場所は書いてください。）

市・町	乗り物	出かける割合	出かける理由
原宿	駅舎	週に1回(か)	新しい物がたくさんある、いろいろ楽しい。



(小・中) 学校 年 男・女

5. 足利の町のようすで良いところ(じまんできるところ、ほこりに思うところ)直したほうが良いところをそれぞれ最高3つまで上げてください。

良いところ(じまん、ほこりに思う)	直したほうがよいと思うところ

6. 足利学校が江戸時代のようにたてなおされたり、テレビで足利のことがじょうかいされたりして前よりたくさん的人が足利に来るようになりますがこのことについてあなたはどのように考えていますか。あてはまるものに○をつけてください。

(1) (假想に興味はない) (ほのかりとれてる足利に興味ない) (いさなぐると興味ある)

6. (2) 足利市内の観光地(人が見物などで集まるところ)であなたが行ったことのある場所にすべて○をつけて下さい。その聞いたことあるところもひいてください。

たてなおされた足利学校、おりひめ公園(神社)、名草きよせき群(のむら)
大岩びしゃもんさま、行道山(じょういんじ)、りょうがいさん
大日(ばんじゆ)、足利公園(そううん美術館)、くりた美術館
早川農園(はやかわ農園)、かばさきはちまんぐう(のむら)

(3) (2) の中に2回以上いったことのある場所について、下の表にくわしく書いてください。

場所	回数	だれといったか	どうしてそこに何もいくのかその理由は

7. 足利がじょうらいどんな町になっていくといいですか。あてはまるもの3つに○をつけてください。また、目標の町を1つあけてください。

①足利学校 ②佐野市 ③鹿島のさわらまち ④佐賀のさわらまち ⑤佐賀のさわらまち ⑥鹿児島のさわらまち ⑦鹿児島のさわらまち
(鹿児島のさわらまち) ⑧人口が多い自治体 ⑨歴史と文化の町(夏目漱石、森田一義、吉野作兵衛、高木正三)

目標の町()
8. あなたは、じょうらい足利市で生活したいと思いますか。あてはまるものに○をつけてください。
(1) 生活したい 生活したくない どちらとも言えない
(2) (1) で選んだ理由は何ですか。書いてください。

--

〈調査結果〉

日常の行動圏(人)

	6年生計	中1男	中1女	中2男	中2女	中3男	中3女	中合計	全合計	中学校 %
市内	102	18	16	50	38	51	47	220	322	68.3%
市外	0	1	3	6	6	9	6	31	31	100 %
自転車	38	19	10	50	9	45	47	180	218	82.5%
電車・車	62	19	14	6	38	6	11	94	156	60.2%

足利市周辺の空間認識

	6男	6女	1男	1女	2男	2女	3男	3女	小計	中計	全体合計
正 答	19	9	4	1	15	4	16	8	28	48	76
両毛正答	16	14	3	1	6	3	7	9	30	29	59
両毛誤答	14	13	2	6	8	9	18	11	27	54	81
誤 答	61	70	7	9	23	22	16	25	*131	*102	233

足利への愛着・帰属意識

	6男	6女	1男	1女	2男	2女	3男	3女	小計 %	中計 %
①生活したい	30	28	11	5	22	20	24	12	58	94 39.8%
②どちらとも	59	67	3	5	24	26	21	27	126	106 44.9%
③生活したくない	16	9	3	3	7	2	11	10	25	36 15.2%

足利の将来構想

	6男	6女	1男	1女	2男	2女	3男	3女	小計	中計	全体 %
①工業	1	1	1	0	4	0	6	1	5	12	17
②商業	19	13	3	2	13	13	18	16	32	65	97
③農業	26	20	4	2	3	3	1	5	46	18	64
④自然	86	85	14	14	32	32	41	43	151	176	327
⑤教文化	27	41	7	7	15	15	30	25	68	99	167
⑥都会	29	30	2	4	20	20	22	18	59	86	145
⑦歴史観光	86	86	12	7	37	37	36	39	152	168	320
目標の都 市	北海道 東京 千葉	6 10 4	足利	宇都宮	東京 宇都宮 京都	9 5 4	東京 京都 鹿島 東京 横浜	8 5 8 8 3	14		

足利市についての認識（数字は人数）

	+ イメージ(男)	- イメージ(男)	+ イメージ(女)	- イメージ(女)
6年生	足利学校	77	ゴミ	15 足利学校
	鎌阿寺	51	楽しい施設	81 楽しい施設
	織姫公園	10	自然保護	10 鎌阿寺
	足利花火	9	道路未整備	12 川の汚れ
	水・空気が綺麗	8	川の汚れ	12 自然保護
	渡良瀬川	7	いなか、公園整備、自然	12 道路未整備
中学1年生	自然	7	自然保護、橋の増設	5 楽しい施設
	足利学校	8	川の浄化	4 川の汚れ
	水・空気が綺麗	3	ゴミ	2 自然保護
	鎌阿寺	6	ゴルフ場の建設	8 いなか、鎌阿寺の改造
	足利尊氏	2	緑の増加、交通マナー	5 大学が少ない
中学2年生	観光客、大きな川			2 歴史的建造物がある
	足利学校	29	ゴミ	2 歴史が深い
	歴史的建造物がある	9	川の浄化	5 ゴルフ場
	自然がある	13	何もない	3 楽しい施設
	鎌阿寺	7	公園の整備	2 川の浄化
中学3年生	水・緑が多い	10	商品が少ない、今のもま	4 大学が少ない
	足利学校	18	ゴミ	2 歴史的建造物がある
	自然がある	18	楽しい施設	6 足利ちなんだお菓子の土産を
	歴史的な町並み	6	交通の便	4 歴史的建物、町並み
	文化財	7	町のなかのムダなもの	4 観光公害
中学生	鎌阿寺	5	店の数が少ない	3 中央商店街の魅力アップ
				3 観光公害、観光のレベルアップ
中学生				2 町の活性化を

(4) 目標

- ① 身近な地域を見つめ直しその理解と関心を深めると共に、身近な地域を愛する心を育て、地域の発展に努力しようとする態度を育てる。
- ② 身近な地域の諸事象を観察・調査する学習や、地図・統計等の資料の活用などを通して地理的な見方、考え方を養う。
- ③ 適切な課題を設けて行なう学習を通して、主体的に学習する態度を育てる。

(5) 指導内容の構成 (10時間扱い)

ここでは、次のような指導内容により全体を10時間で構成した。(目標と反省)

○ 第1時 「いろいろな地図ときまり」

○ 第2時 「学区域及び身近な地域の変化と特色」

(目標) ・身の回りの多くの地図に関心を持ち、利用目的に応じて地図を選択するとともに、地形図のさまざまな約束や表現の仕方について理解できるようとする。

・学区域及び身近な地域の新旧の地図や、写真・統計・資料等を活用して、学区域や身近な地域の変化のようすを読み取らせる学習を通して、学区域及び地域の特色や、課題について予想ができるようとする。

(反省) ・生徒の家にある地図が、意外と利用されていないことが実態として挙めた。また町並みの変化について、市政要覧の写真や県立図書館の地図を利用としたが、各年代を代表する風景写真・VTR・スライドの入手が不十分だったので、地域の変化について読み取る学習では、学区域及び地域の特色や課題について、把握することが難しく課題設定で苦労があった。更に身近な地域に対する生徒自身の体験が、考えていた以上に個人差があるので、今後はより精密な実態調査をしておく必要性を感じた。

○ 第3時 「野外調査1～調査課題を設定しよう！」

○ 第4時 「野外調査2～調査課題の内容や方法を考えよう！」

(目標) ・身近な地域の特色や変化のようすから、興味・関心のあることをあげさせる。その際に次のような4つの観点から課題設定をして、観察・調査活動をさせる。

A：地域の変化 B：他地域との結びつき C：地域の特色 D：地域の課題

・各グループごとに選択した課題を、追求していく計画が立てられるようにする。効果的な調査が実施できるように十分な話し合いをした上で、役割分担や準備するものの確認ができるようにする。

野外調査

実施計画例

社会科野外調査実施計画書		
実施年月日	平成16年5月13日(金)第5回 ～6回時	実施時間 15時30分
実施場所	足利学校附近	移動方法 自転車 2年1組5班
調査課題別別	地域の特色	観光客の足跡についてのイメージをくわく
調査項目	足利のイメージ	
調査項目	足利市として改善したことがないこと	
調査項目	足利についてどんなことをしているか	
調査項目	足利がどんなところであつてどうな問題を抱えているか	
調査項目		
氏名	(係分担)	担任
班長	小沼 開く人	
班員	菊地 書く人	筆記用具 ノート
班員	星野 開く人	
班員	土橋 開く人	
班員	渡野 書く人	筆記用具 ノート
班員	尾澤 開く人	

社会科野外調査実施計画書		
実施年月日	平成16年5月13日(金)第5回 ～6回時	実施時間 15時30分
実施場所	足利学校	移動方法 自転車 2年1組3班
調査課題別別	C	調査課題 足利学校の印象、目的等
調査項目	足利学校の印象	
調査項目	～に来れた目的	
調査項目	～に来た人ほとんど（足利の人に）	
調査項目	～から来たか	
調査項目		
氏名	(係分担)	担任
班長	茂木 ばんな寺にいく・かく人	1-トスル。
班員	横塚 2つうち人が多い方がいい	1-トスル。
班員	植木 足利学校にいく・さく人	特にない。
班員	小林 ざくな寺にいく・さく人	特にない。
班員	米田 足利学校にいく・せく人	1-トスル。
班員	横塚 2つうち人が多い方がいい	特にない。

(反省) ・2年生では、課題設定の手順を説明するのに予想以上に時間が必要なこと。また調査課題別グループによる課題設定に、クラスによっては偏りが見られてしまった。

野外調査実施計画書に、具体的な調査事項を記入させ、それが課題解決のための手立てとして有効かどうか、よく考えさせてから調査に行かせたかったが、時間が十分にとれなかった。また調査が聞き取りやアンケートが中心になっていたり、アンケート用紙なども十分な内容ではなかったが、初めての試みということで評価してやると意欲も高まった。

○ 第5～6時 「野外調査3～地域を見つめ直そう」

(目標) ・調査課題追求のための観察聞き取り、アンケート調査などを通して、野外調査の方法を身に付けさせると共に、地域の人々の生活や諸活動への関心を高める。
・グループ全員で協力し調査、聞き取りにあたり、正しい態度や礼儀を身に付けさせる。

生徒アンケート例

このアンケートは地理で使うためのものです。
お忙しいところ誠に恐縮ですが、ご協力をお願いします。

1. 足利をどう思いますか?
A. とてもいい所 B. いい所 C. どちら
D. よくない E. とてもいや
2. 足利に何で来ましたか?
A. 文化遺産を見に来た B. 買い物に来た
C. 知人に会いにきた D. ビジカへの行き帰り
E. その他
3. 足利に来たのは何回目ですか?
A. 初めて B. 2回目 C. 3回目 D. 4回目以上
4. 足利にはどれくらいいりますか?
A. 1泊 B. 1泊 C. 2泊 D. 3泊以上
5. あなたはどこからきましたか?
A. 栃木県 B. 茨木県 C. 群馬県 D. 千葉県
E. 埼玉県 F. 東京 G. 神奈川県 H. その他
6. 足利がどうが印象的ですか?
7. また足利にまたいと鬼いますか?
A. せひ来たい B. 機会があれば… C. もう来たくない
D. 別に考えていない

ご協力有難うございました。

(反省) ・調査場所への移動時間が往復で約30分。実際の観察、調査活動時間約1時間という中での調査であったが、大きなトラブルもなく実施できた。ただ野外調査を予定していた全6クラス中2クラスは授業時間の都合上、休日での実施ということになってしまった。

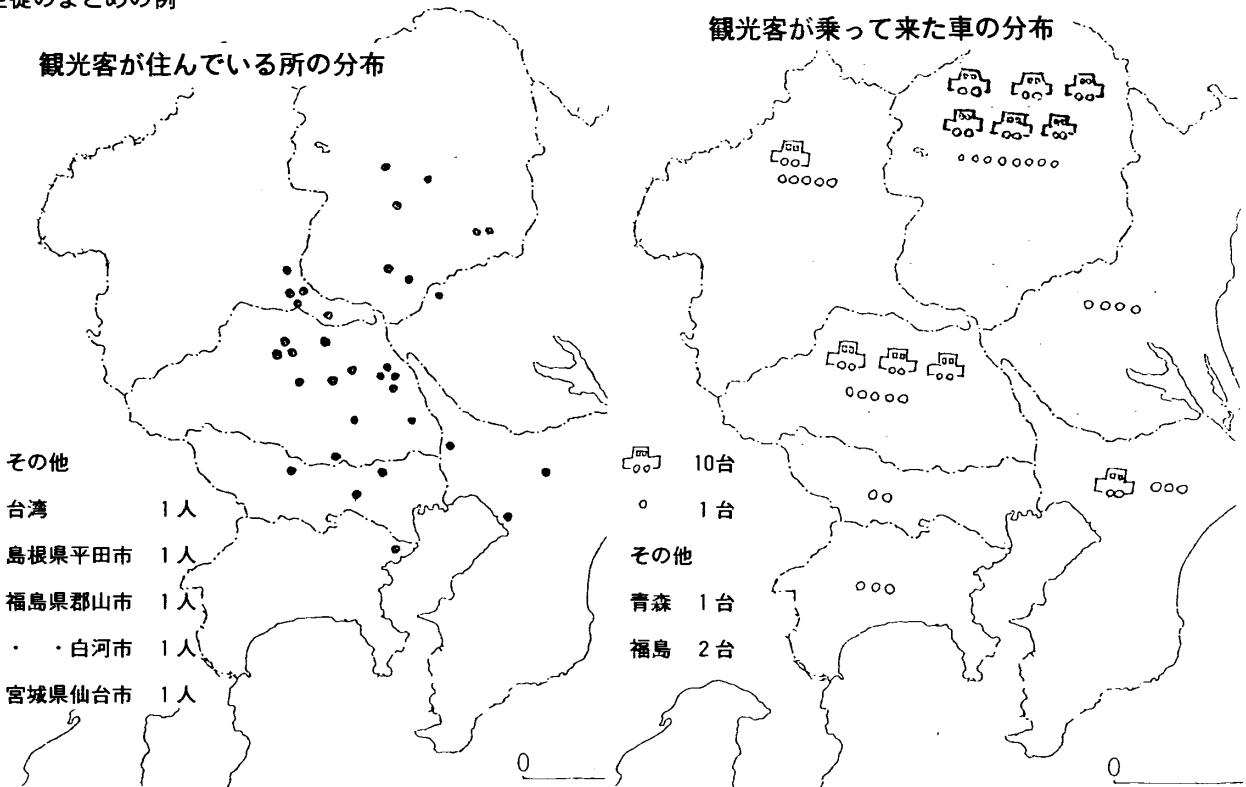
○ 第7～8時 「地域性の見直し～調査課題をまとめよう」

(目標) ・野外調査の結果や資料の整理をしたり、結果を図表やグラフ化するなどの作業的学習を通して、調査課題についてまとめられるようにする。

・分かりやすい発表をするために、発表方法を工夫できるようにする。

・資料の図表化、グラフ化などの学習を通して、地域の変化、他地域との関係、地域の特色、地域の課題を読み取る能力を培う。

生徒のまとめの例



(反省) ・自分達の調査集計などはできるが、どのように課題と関連させ、まとめていくのかについては難しかった。また、時間の関係上調査結果だけのまとめになってしまったグループもあった。分かりやすい発表のためには、調査結果からの事実とそこからの考察に分け、グラフ・地図・イラスト化など視覚に訴える発表を心がけるよう指導したが、リーダーの力量により差が出たことは、今後工夫する必要があるかもしれない。全体的には、授業時間以外の時間をいかに工夫して生み出すかが、大きな分岐点だと感じた。

例えば発表用の資料作りのためには、各種資料や統計を参考にして、自分達の調査内容を確かなものにし、結果の背景にまで考えられるようにすることが、必要となってくるから時間の確保は大きな課題でもあった。

○ 第9～10時 「地域性の見直し～調査結果を発表しよう」

(目標) ・調査結果についての発表をよく聞くと共に、自分たちのグループの発表内容や方法と、比較検討する活動を通して、野外調査の成果を確認する。

・身近な地域に対する理解を一層深める。

・学習の成果を生かして、更に個別な学習課題について追求しようとする意欲を高める。

(反省) ・発表の手順や役割分担について指導したが、各グループとも、約10分間という時間の制約（各クラス6～7グループであったので、1時間の発表グループは3～4グループになる。）があるので十分意を尽くせなかった面や、発表のようすについてメモをとるための、自己評価、相互評価用紙を工夫する必要があった。また1時間の発表がおわった時点での、教師による評価についても、観点別項目を生徒に具体的に示してやることで、生徒の次時への発表意欲がもっと高まった気がする。しかしながら一人ひとりの生徒が、その特性に応じて発表をしていたし、更にクラスによっては、何の指示もしてないのに発表の成果をクラスに掲示したことなど関心、意欲の高まりも見えた。

(6) 評価の観点

課題学習の評価は、多様な学習課題の設定と学習方法の多様性を考慮すれば、課題学習によって獲得した、知識の量だけを問題にしてはいけない。より大切なことは学習過程で習得された社会的な見方や探求的な技能を、積極的に評価していきたい。本小単元では個々の生徒が調査を通して身に付けた調査活動それ自体や、調査活動・作業的活動への関わり方である生徒の見方、考え方、意欲、態度等を多面的に評価したい。

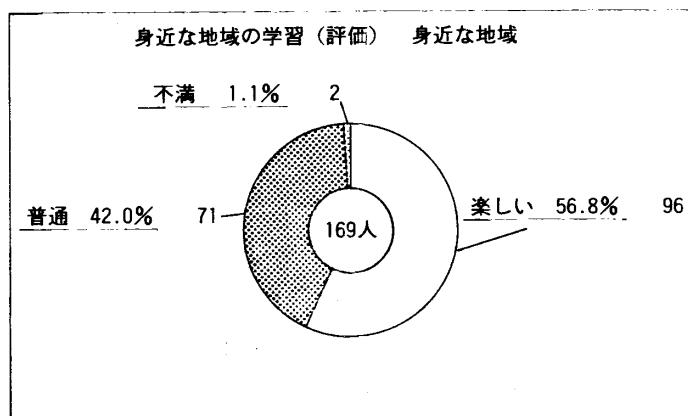
このような考え方により次のような評価問題を作成し、学習の最後に生徒に自己評価をさせてみた。評価問題の内容とその結果（5クラス169名）は次のようであった。

社会科「身近な地域～野外調査を中心として」評価問題

1. 身近な地域の学習

は楽しかったですか。

- ・ 楽しい 96人
- ・ 普通 71人
- ・ つまらない 24人



2. 身近な地域の学習は、大きく分けると次の6つの段階に分けることができますが、どの学習の段階が最も楽しく興味、関心がありましたか。

- (1) 地形図を使って、地形図のきまりについて学習する。
- (2) 身近な地域の変化と特色について、地形図から読み取る。

- (3) 野外調査のための準備
野外調査実施計画書を作る。
- (4) 野外調査
- (5) 野外調査のまとめ
- (6) 野外調査の結果発表と自己評価

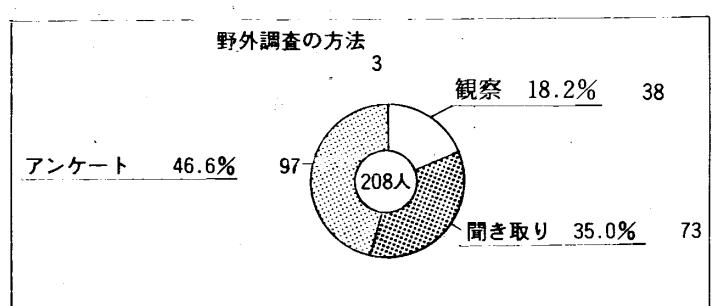
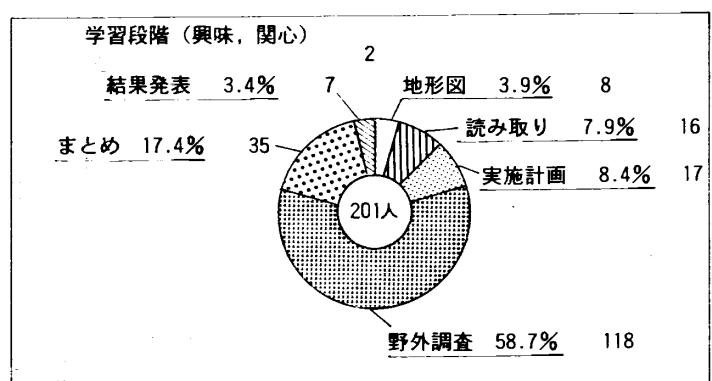
3. 野外調査について聞きます。

- (1) 調査はどこで実施しましたか。
(2) 調査方法は何でしたか。

ア. 観察 (38人)
イ. 聞き取り (73人)
ウ. アンケート (97人)

- (3) (2)の方法で実際にやってみて
うまくいったことは何か。

- (4) (2)の方法で実際にやってみて
難しかった点と反省すべき点は何か。



4. 調査課題（野外調査）のまとめについて書きます。

- (1) 良くできたことは何か。（工夫したこと）
(2) 難しかった点、反省すべき点は何か。

5. 調査課題の発表について聞きます。

- (1) 良くできたこと（工夫したこと）は何か。 (2) 難しかった点、反省すべき点は何か。

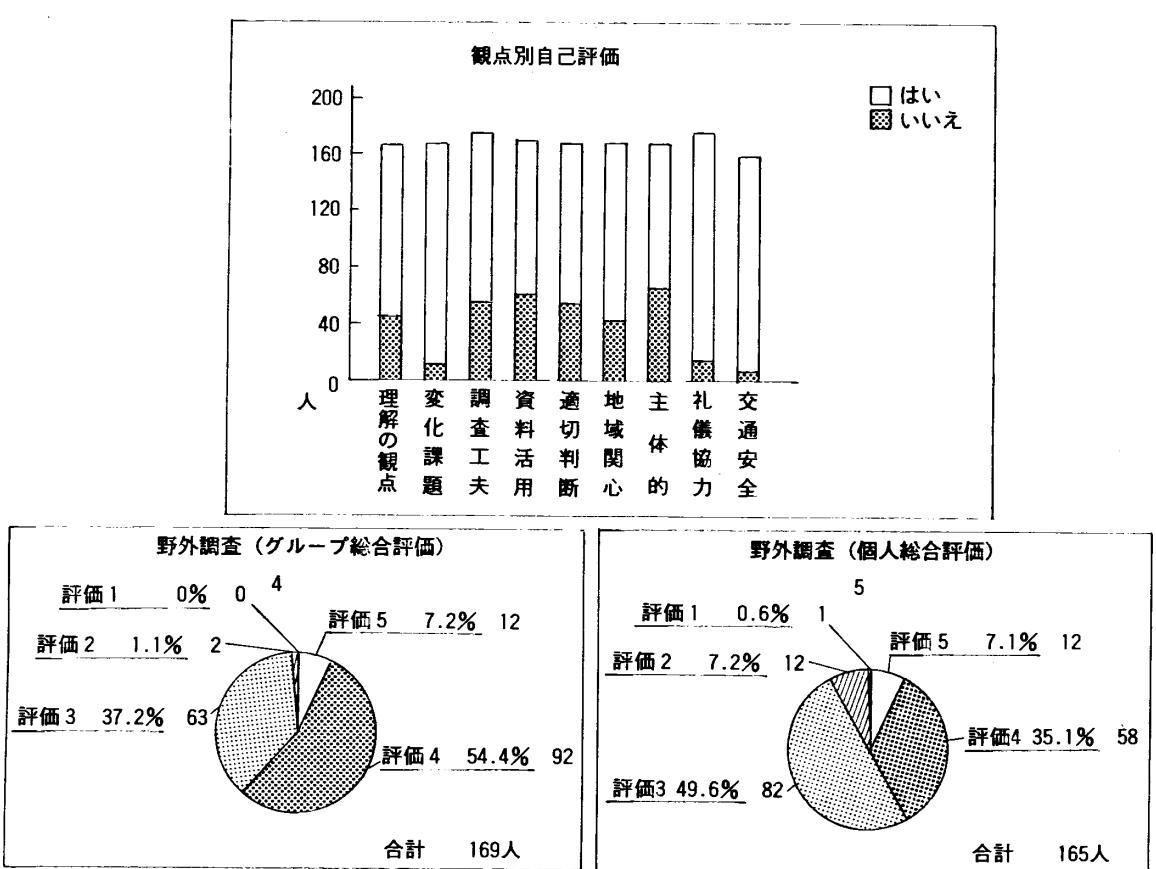
6. 次の項目にしたがって、自己評価してください。（該当するものに○をつけてください。）

- | | |
|-----------------------------------|-----------------|
| (1) 身近な地域の現状を理解していくための観点が分かったか。 | (はい 121 いいえ 45) |
| (2) 身近な地域の変化、特色、課題がおよそ理解できたか。 | (はい 154 いいえ 13) |
| (3) 観察、聞き取り、アンケート等の調査活動は工夫できたか。 | (はい 119 いいえ 56) |
| (4) 地形図、写真、調査の集計結果などの資料が活用できたか。 | (はい 108 いいえ 62) |
| (5) 調査結果や集計結果に基づいて、適切に判断できたか。 | (はい 112 いいえ 55) |
| (6) 身近な地域の人々の生活に関心がもてるようになったか。 | (はい 125 いいえ 44) |
| (7) 身近な地域の課題について主体的に考えられるようになったか。 | (はい 101 いいえ 66) |
| (8) 調査活動や作業学習に積極的に取り組めたか。 | (はい 137 いいえ 33) |
| (9) 礼儀をよくし、協力して聞き取り調査等ができたか。 | (はい 159 いいえ 16) |
| (10) 野外調査や往復時の交通安全に注意できたか。 | (はい 149 いいえ 9) |

7. 自己評価

8. 野外調査をグループとして総合的に評価すると

野外調査を個人として総合的に評価すると



9. 身近な地域の学習を終えて――。

(生徒の感想例)

(2年女子)

- ・何もない普通の市だと思っていた足利も、他の地域の人には「良い町」として知られていた。身边にありすぎて良いところがわからなかった足利について、少しだが良いところを知ることができた。これからも足利の良い所をたくさん知ろうと思った。
- ・身近な地域のことでも知らないことがたくさんあったので、この調査で少し分かったのでよかった。調査をしていて楽しく、まとめで自分の説明力もついた気がする。
- ・人に聞いたりするのは苦手だったが、店の人と話ができるうれしかった。
- ・営業時間はさまざまだったが、それは何故か本当に予想したとおりなのか、もっとくわしく調べればよかったです。

(2年男子)

- ・足利の観光地には、かなり関東地方からくる人が多いことがわかった。もっと、全国からくるようならすごいと思う。でも、そのためには足利の町をきれいにしなくてはならないと思う。みんなと協力できてよかった。

(2年男子)

- ・始めのうちは野外調査について、理解できなかった。しかし、アンケートを取ったりしているうちにだんだんとわかってきた。アンケートの時答えてくれない人がいたのは残念だった。夏休みの時には、今回以上のものにしたい。

3. 実践の成果と課題

成果と課題については、教師による観察及び課題学習の観点として上記した観点と、生徒による自己評価及び感想を基にして考えたい。

- (1) 主体的な学習という観点については、生活班ではなく課題別班を作つて、学習計画を立てさせてみたことで、生徒の意欲も高まり身近な地域の現状について、概ね理解できたようである。しかし、地域の現状を理解していくための4つの観点の内、特にAの地域の変化やCの地域の特色については、課題設定も比較的容易であったが、Bの他地域との関係やDの地域の課題については、課題設定も難しいようであった。
- (2) 野外調査活動に対しては、多くの生徒が楽しさを感じ、意欲をもって取り組んでいたようであったが、実施計画書の作成が不十分であった班は、観察調査の目的が達成できずに学習のまとめに苦労していたようであった。
- (3) 野外調査や資料の整理をし、結果を図表やグラフ化するなどの作業的学習を通して、班別の調査課題に迫っていくことも1つのねらいであったが、班の野外調査だけのまとめになり、各種資料や統計を参考にして、内容を確かなものにするまでには到達できなかったようである。
- (4) 身近な地域に対する理解や関心は、生徒の感想にもあるように、この学習を通して高まり、夏休みの課題に対して意欲を持った生徒もみられた。
- (5) グループ活動としての活動は、比較的うまくいっていたようであるが、個人の自己評価に見られるよう、今後も指導が必要であることが確認できた。

4. 今回の実践と補充学習との関連について

本校では従来身近な地域の学習の関連、補充学習として、夏期休業中の課題学習にさまざまな方法をとってきた。昨年は共通課題として、社会科各分野の目標や内容に示された観点は勿論、現在の生活と共通すること、異なること、将来有効なこと、考えさせられたことなどをまとめさせた。

今年は今までの反省に立ち、各学年ごとに作業的学習を含む課題を与えることで、生徒が主体的に学習に取り組めるように考えてみた。特に2年生では「足利市を見なおしてみよう」における経験がいかせるように、今回の調査では不十分であった側面や、足利市ばかりでなく両毛地域を始めとして、国内外における課題を設定することで、主体的な学習を期待してみた。

夏期休業中の課題に関する留意事項

1. 方法について

- (1) 課題1 個人または3人までのグループで、身近な地域で行なった方法を更に、深化させ、丁寧に調べる。

ア. 調査対象地域（足利市全域、国内各地域、海外）

- (2) 課題2 グループによる関東地方の調査をする。

* 関東地方に関わる調査課題による

2. 観察、調査の手順及び準備するもの

- (1) 1:25000の地形図、資料を必ず用意する。
- (2) 調査内容、項目について十分検討して、調査課題を設定する。

(3) 1:2500の地形図で、ルートマップを作成する。

(4) 課題調査計画書を必ず作成して、観察調査活動を行なう。

3. 観察、調査、聞き取りの実際について（身近な地域の学習方法を参考にして）

(1) 地形図、ノート、カメラ、筆記用具、多少の小遣い

市役所、図書館等にいって資料をみせてもらう時には、事前に必ず連絡（目的、人数、氏名連絡先等）をしておき、短時間で効果的な聞き取り調査ができるように心がけ、相手に対して絶対迷惑のかかることのないようにする。あいさつ、お礼の言葉も忘れないようとする。

(2) 気が付いたことは、全てノートなどに記録しておく。（スケッチも観察では有効）

(3) 観察、調査、聞き取りしたことなどは、早いうちに、課題に沿って整理しておく。

4.まとめ方について

(1) 用紙はB4の画用紙、ケント紙または白の上質を各自用意する。（何枚でも良い）

(2) 地形図、スケッチ、写真、統計、グラフなどを有効に使う。

(3) 1枚目に表紙（学年、組、氏名を明記）を付けて、2枚目から本文とする。

(4) ホチキス等でしっかりと止め、始業式の日に提出する。

(5) 調査の観点を明記する。

（地域の特色、地域の変化、他地域との結びつき、地域の課題）

(6) 次のことをまとめの中に必ず明記する。

ア. 調査地域の歴史的な背景、経過等

イ. 調査地域と周辺地域との関係及び変化

ウ. 調査地域の今後の変化の予想

エ. 参考にした統計、本、話を聞かせてくれた人の氏名

オ. 地域を調べてのまとめ（感想）

5. 終わりに

今回の授業実践を通して、多くのことを学ぶことができた。生徒が地域を予想以上に見てないという実態からすると、教師自らが地域について十分把握した上で、指導計画を立てていくことが重要であること。地域を見ていく観点を本校の生徒にとって理解しやすい方法で示すこと。課題設定に対して、どのように教師が関わっていったらよいのか。また、単元全体の評価規準や毎時の評価規準は実際どうすればいいのか。分野間の関連を捉えた課題設定をさせていくためには、教師は何を準備してやれるのかなど多くの課題を確認することができた。今後は追試的な実践を重ねていくことにより、生徒主体の学習を促すことができるよりよい指導方法が確立できるように努力していきたい。

評

中学校の社会科の授業は、内容教科的な性格や高校入試の影響などもあって、ややもすると教師主導型の一斉学習による知識注入の授業に陥りやすいと指摘されてきた。また、社会の変化に主体的に対応する能力の育成が求められているにもかかわらず、社会的事象に対して関心を示さない生徒が多くなり生徒の社会性や公共性などの欠如が目立つようになっているとの指摘もある。

このような指摘を受け、今回の社会科の学習指導要領では、「適切な課題を設けて行う学習」を明示し、生徒の興味・関心を喚起して主体性を促し、個を発揮させるような学習の充実を目指しているといえよう。

本研究は、このような課題を受けての研究実践と受け止めることができる。この研究の特色をまとめてみると

1. 教師自身、これまでの授業実践を振り返り、「身近な地域」について調査活動を中心に作業的、体験的な学習を重視し、生徒の主体性を発揮させて、効果的な学習となるよう学習内容や指導方法の工夫に取り組まれた。
2. 教師自らの地域に対する正しい認識と地域への愛着と所属感を基本としながら、本校生徒の実態を綿密に分析、把握し、指導計画作成に生かそうと試みられた。
3. 課題設定に当たっては、地域をみていく観点を具体的に示し、また、調査計画の立案から調査のまとめ、発表までの一連の学習過程の中で、生徒の主体性を促すための工夫がなされている。
4. 評価に当たっては、学習過程で習得された社会的な見方や探求的な技能を積極的に評価することに心がけられ、今回の実践で高められた関心・意欲をさらに夏季休業中の課題学習へと発展的につなげている。

このような本研究は、学習指導要領の改訂の趣旨を踏まえるとともに、児童生徒の側に立った授業の展開を構想していく上で大いに参考になる研究と思われる。今後とも、この研究を継続されて実践を積み重ねられ、そこから導き出された課題の解決を図りながら、更に研究を深められることを期待して評したい。